

**令和7年度第1回宮崎県地方独立行政法人評価委員会  
議事要旨**

**1 開催日時** 令和7年7月11日（金） 13：30～15：00

**2 場 所** 宮崎県立看護大学附属図書館2階 多目的ホール

**3 出席委員** 神奈川県立保健福祉大学教授 石原 美和  
※五十音順 宮崎県看護協会会長 久保 敦子  
公認会計士 高妻 和寛  
宮崎県医師会副会長 小牧 斎  
宮崎大学理事補佐 伊達 紫

**4 審議概要**

**議事（1）公立大学法人宮崎県立看護大学の令和6年度業務実績報告について**

（令和6年度業務実績報告書の大項目第1まで）

看護大学から資料の説明を行い、委員質疑を行った。主な質疑は以下のとおり。

- |               |                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>【久保委員】</b> | 推薦制度の変更について、変更内容を教えていただきたい。また、地域推薦について併願制度を再導入したとのことだが、経緯を教えてください。                                                                                                                                                    |
| <b>【看護大学】</b> | 「一般推薦」という名称は「自由」というイメージを持たれやすいため、「みやざきの医療卒」という名称変更により、出願者や高校・保護者に対して入試区分の意義の理解と意識付けを行うべく変更した。内容に大きな変更はない。<br>また、地域推薦については推薦入学生の学力等の課題もあり途中から専願としてきたが、地域推薦の意義について市町村や高校にも説明強化を行い、ベースが整ってきたので、再導入を決定した。効果検証はこれから必要と考える。 |
| <b>【看護大学】</b> | 地域推薦は令和元年度から併願として導入、令和3年度に専願化していたが、今回から併願を再導入するということになった。                                                                                                                                                             |
| <b>【久保委員】</b> | では今後、名称変更により県内に残る方が増えるの見込んでいるということでしょうか。                                                                                                                                                                              |
| <b>【看護大学】</b> | そう期待している。入学前のスタートアップ講座も対象を拡大し、地域推薦だけでなく一般推薦入学者に対しても実施するようにしている。<br>一方で、県内の医療機関の採用試験に落ちて県外に出る学生もいるなど、県内就職志望の学生が県外へ出て行ってしまう事例もある。色々努力はしているが、大学でできることは限られるので、県の考えや連携できることがあれば教えてほしい。                                     |

|         |                                                                                                                                                                             |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【医療政策課】 | 採用試験については色々な状況があるかと思うが、試験をクリアして県内に就職いただきたいと考えている。大学の先生たちに様々努力いただいているのは十分承知しているところであり、県としても大学の取組と併せて色々と協議・連携しながら、県内就職率の向上に取り組んでいければと考えている。                                   |
| 【看護大学】  | 就職率については過去と状況が違うところもあり、進学者の増加なども率に影響している。また、県内医療機関で採用人数が絞られているところもあるので難しいところもあるが、県内の医療機関を実際に見てもらうなど、県内の魅力を感じてもらい、1人でも多く県内に医療職者を輩出したい。                                       |
| 【石原委員】  | 宮崎県は自然減だけでなく人口の流出が多く、看護だけに限らないベースの問題もあるかと思う。特に地方の女子の問題はニュースでも取り上げられていた。<br>大学の努力としてやれることはしっかりやっていただき、その上で大学、看護協会等の関係団体、県が協力して、働きやすい職場や業務について考えることが大事かと思う。                   |
| 【伊達委員長】 | 医学部でも同様の問題がある。先輩卒業生が後輩を引っ張って、指導したりするなど、現場に出てからの育成が魅力につながればと思う。                                                                                                              |
| 【小牧委員】  | 最初はギリギリで入っても、学校や現場で勉強してすごくできるようになる学生もいる。「心技体」という言葉があるが、看護師の本論は人を助けることにあると思うので、「技体」はもちろん「心」の部分、ここを教育の中で養っていただければと思う。                                                         |
| 【看護大学】  | 患者の気持ちを察しながら看護をしていくということを、1年次から大事にしながら教育している。先日卒業生に会ったが、学生時代に培った「相手の立場に立ち、相手と共に喜ぶ」という看護の心を、今も大事に心に留め、実践してくれている。<br>病気や身体のことだけでなく、そういった心の部分も含めて、開学以来の伝統であるので、大事にしていきたいと思います。 |
| 【高妻委員】  | 就職率については進学者を母数から除くことも一つ影響があると思うが、進学者も含めた全体的な数について参考値でもいいので数字が分かるといいのかなと思う。<br>もう1点、ディプロマ・ポリシーについて、報告書で「2年間の学びに関するアンケート」の到達度への満足度が50%だが、これは残り半分は満足していないということか。               |
| 【看護大学】  | 学びのアンケート自体が大学卒業までの一連の方針に対してのアンケートなので、4年間で100%、ひいては2年間では50%という考え方で                                                                                                           |

|         |                                                                                                                                                                                 |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         | ある。                                                                                                                                                                             |
| 【高妻委員】  | 2年間の段階で50%ということは卒業時には100%に到達するという意味で捉えればよいということで、承知した。                                                                                                                          |
| 【看護大学】  | 2年生は学びの途中で3年生以降も実習等を重ねながら伸びていく。まだ学びのプロセスの途中という意味での50%と思っている。                                                                                                                    |
| 【伊達委員長】 | 県内就職率に議論がフォーカスされがちだが、看護に限らない県全体の問題として若い世代の流出を防ぐにはどうすればよいかということ。また、今居る方にもうちょっと目を向けて大事にしていくことが必要かと思う。数値の出し方についてもまたざっくりと教えてもらえれば。                                                  |
| 【看護大学】  | 進学者の分は足していないが、本学の県内就職率は学部生だけの割合であり、別科助産専攻科生や院の保健師課程を含めていない。他県では医療職全体で出しているが本県の場合は学部で出すような指標となっている。別科や院も含めた全体の数で考えると、県内就職率はもう少し上昇する。令和6年度はそれでも50%を下回るが、全体で見ると50%を超えている年もそれなりにある。 |

### 議事（１）公立大学法人宮崎県立看護大学の令和6年度業務実績報告について

（令和6年度業務実績報告書の大項目第2から第5及び財務諸表等）  
看護大学から資料の説明を行い、委員質疑を行った。主な質疑は以下のとおり。

|        |                                                                                                                                |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【小牧委員】 | 研究不正の根絶について、医療界全般で生成AIの利用については問題となっているが、学校では何か具体的な取組を行っているか。                                                                   |
| 【看護大学】 | 生成AIについて、学生に対してはレポートや論文等でそのまま使うことがないように十分注意するように、学長名で通達をしている。また、毎年度授業の最初の方でそういった周知はしているが、上手く活用するというのも必要かと思う。                   |
| 【看護大学】 | 学生には注意喚起を行っているが、世の中のDX化の流れとして、そういったものを活用していくことも重要かと思うので、正しい活用方法を学生に指導することが必要と考える。教員の方も業務削減の一環としてAIに任せられる部分もあると思うので、考えていく必要がある。 |
| 【看護大学】 | 生成AIを活用してどのように学びを豊かにしていくかという側面がある一方、それに依存しすぎて学びの過程を放棄するようなことはあってはならないと思う。入学時の学長挨拶でも申し上げたところ。                                   |

活用方法については今後大学としても整理していくが、論文作成等で使わないようしっかりとチェックしており、注意も促している。

【石原委員】 これは今どこの大学でも大きな話題となっている。教員のチェックや学長からの訓示等併せてやっていくことが必要。未知のものなので、教育界も走りながら考えていく必要があると思う。

【高妻委員】 勤怠管理システムについて質問だが、導入にあたってどのくらいコストが掛かったか。また、どのくらいの効率化が図られたか。

【看護大学】 クラウド型のサービスを利用しているので、資産としての計上はないが、導入に掛かった費用が62万円ほどとなり、年間使用料が約50万円となる。

紙ベースの集計作業をデータベースでできるため、月末処理の時間短縮等につながっているほか、教職員の個人のスマートフォンからも申請できるので、利便性の向上にも効果があった。効率化については、短縮された時間で他の業務を行ったりしているので、具体的にどのくらい縮減されたというデータは無いが、大学の業務をより深く、広くできるようになった。

【高妻委員】 DX化により効率化した時間を他の業務に活用しているのは素晴らしいと思う。これ以外にもアウトソーシングして、業務効率化できる部分はまだまだあると思うので、また色々検討いただければ。

【看護大学】 外部委託での負担軽減としては、他に現在4つほど実施しており、情報システムの運用支援や財務会計システム等の保守運用、会計関係も外部委託している。

【伊達委員長】 勤怠管理システムをメンタルヘルスのケア等にも展開していくといったことは考えているか。

【看護大学】 事務局における休暇や時間外の状況が見えるようになったので、何かあった時に相談や声かけできるようになったという部分は非常にある。

【久保委員】 寄付金収益が前年度の1.4倍となっているが、こういった取組をされたのか。

【看護大学】 この収益に関しては、図書や科学研究費に付随するパソコンの現物支給などの物品が寄付金収益として計上されるため上がってくるもので、一般の方からの寄付をいただいた等の理由での増額ではない。

### その他 議事（１）全体を通して

議事全体を通しての追加の委員質疑を行った。主な質疑は以下のとおり。

- |         |                                                          |
|---------|----------------------------------------------------------|
| 【石原委員】  | あまり触れなかったが、地域貢献等も非常に活発に実施されているかと思う。                      |
| 【伊達委員長】 | そういったところも含め、県内就職率の参考値や大学の果たす役割など、もう一度広い視点で見て、評価を示せればと思う。 |

### 議事（２）今後のスケジュール等について

事務局から資料を説明し、事務局の説明のとおりスケジュールとすることを決定。